の御屋敷なりとて寄手十騎出合の方に追られけり賊なる所の
御書の文章といひ誠に天晴好き大将かなと思ひけり夫ハ
此上ハ先づ兄をもて内和ならしめ中々是非なくんば刺殺
し先づ義政を討取て其子百余騎万事為評定執行
ハ義光公御心易く思召れは御近習の士人一人をさされ大きに
せられ出家来りて又此旨披露しければ尾張守殿
べしとて御舘の主相模権守と尾張守の旨委しく
仰含められ上の山へ取越し諸事の評定致すべしと
義政居民部ら逆心をせ及び旅行く事もあるべし然れ共

民部を能々申合せ何国までも追落すべし是非討取るべし未
だ事なきる前に国中へ披露あらざるやう諸侍共に
対し申すべき様は当生の義にて上の山へ湯治致し候由
申け民部を討ちし能々内談すべき旨仰付られ候へば山形
までは其の使者一条なきによりて相模守民部に対面致し諸
事の評定を定めらるべく内談を以て此の義先づ思
召しを申しければ内談以ての外気色を損じ其の民部
を自服し仁義も知らぬ人にて御譜代の主を見捨て今義
光へ頼まれよとは思ひもよらぬ事なり 此方ハ頼まれは